

奈良県立美術館ギャラリー企画

奈良ゆかりの現代作家展 ふれる光 三輪途道

令和8年度のギャラリー企画「奈良ゆかりの現代作家展」では、全盲の彫刻家・三輪途道(1966年群馬県生まれ、在住)を取り上げます。

三輪は、東京藝術大学大学院で保存修復技術を学び、修了制作として東大寺俊乗堂の重源上人像の模刻を行いました。そのほか、2002年には東大寺の菩提僊那像を制作するなど、奈良の仏教文化を学び、仏像を制作してきました。彫刻家としては、仏像制作の技術を生かし、作家の日常を木彫で表現したところに特徴があり、特に土着性を重んじ自分の足元を掘り下げることが制作の核としています。30代後半から網膜色素変性症のため視力が弱まり、50代前半に全盲となりましたが、最近は粘土を使って手の感覚だけで作品を制作し、「ふれて鑑賞する」展覧会を開催しています。さらに、近年では「見えなくなっても美術館に行きたい」という思いを実現するために一般社団法人メノキを立ち上げ、視覚障害のある人とアートをつなぐ活動を続けています。

このたびの展覧会では、光明皇后をイメージした新作「**光の存在—光明観音**」を中心とした作品展示と、触って鑑賞する「**触察板の体験展示**」、作家が滞在し公開制作をする「**触察鑑賞ラボ**」の3つパートで三輪途道の表現と活動を紹介します。

会期 | 令和8(2026)6月27日(土)～8月23日(日)

会場 | 奈良県立美術館ギャラリー 観覧料 | 無料

開館時間 | 9:00～17:00 (入館は16:30まで) / 休館日 月曜日(但し、7/20は開館)、7/21(火)

主催 | 奈良県立美術館

助成 | 一般財団法人地域創造 協力 | 東大寺、奈良県立大学、株式会社ジズ、一般社団法人メノキ

関連イベント

アーティストトーク

日時 | 6月27日(土) 14:00～15:30(13:30受付開始)

講師 | 三輪途道(出品作家)、狭川普文(東大寺長老)、簀内左斗司(彫刻家・当館館長)

会場 | レクチャールーム

定員 | 60名(予約不要・参加無料、当日会場にお集まりください)

ことばで触れる、かたちの世界 —「おそとねこ」を手で鑑賞するワークショップ—

三輪途道氏と触察板「おそとねこ」を触って鑑賞します。指先の感覚と言葉で造形の魅力を深く味わいます。

日時 | 6月28日(日) 1回目 10:00～12:00(9:45受付開始) / 2回目 14:00～16:00(13:45受付開始)

講師 | 三輪途道(出品作家)、福西敏宏(一般社団法人メノキ代表理事)、秋本真由美(株式会社ジズ)

会場 | レクチャールーム

定員 | 各回 16名(要事前申込・先着順、参加無料)

見えない人、見えにくい人、見える人のさわって楽しむ鑑賞ツアー in 奈良県立美術館

三輪途道氏の案内で出品作品を触りながら、対話を通して鑑賞します。

日時 | 7月18日(土) 14:00～15:30(13:30開場)

講師 | 三輪途道(出品作家)、山本雅美(当館学芸課長)

会場 | レクチャールーム

定員 | 15名(要事前申込・先着順、参加無料) ※視覚に障害のある方5名、ない方10名程度を予定しています

協力 | 奈良県障害者芸術支援センター

公開制作 日時 | 7月22日(水)、29日(水)、8月5日(水) 14:00～16:00 会場 | 触覚鑑賞ラボ

連携企画

展覧会「ひかりの記憶・手ざわりのむこうー三輪途道・藪内佐斗司・山田修3人展」

内容 | 三輪途道・藪内佐斗司・山田修(奈良県立大学)による彫刻・文化財の3D模造の触れる展覧会。日本の祈りの形に触れながら障害のあるなしを越えて鑑賞するには何が必要かを一緒に考えます。

会期 | 7月4日(金)～12日(日) 10:00～17:00(最終日は16:00まで) 入場無料

会場 | 東大寺総合文化センター金鐘ホール 会議室A

主催 | 一般社団法人メノキ

【本展担当連絡先】

奈良県立美術館 学芸課長 山本雅美

〒630-8213 奈良県奈良市登大路町10-6 Tel. 0742-23-3968

e-mail: narakenbipress@office.pref.nara.lg.jp

【作家紹介】

三輪途道 MIWA Michiyo



アトリエでの制作風景

1966年群馬県に生まれ、1994年東京藝術大学大学院美術研究科保存修復技術専攻修了。

修了制作では東大寺俊乘堂重源上人像を模刻し、東大寺に寄贈。2002年東大寺開眼1250年研鑽法要事業において東大寺の依頼で菩提僊那像を制作。同年「東大寺のすべて」展(奈良国立博物館)に出品。2018年「東大寺と東北一復興を支えた人々の祈り」展(東北歴史博物館)に参加。

近年の展覧会として、「ヒューマンビューイング-藤野天光、北村西望から三輪途道のさわれる彫刻まで」(2024年、群馬県立館林美術館)、「ひかりの記憶・手ざわりのむこうー三輪途道・藪内佐斗司・山田修3人展」(2026年、東大寺総合文化センター)など。

●作家紹介インタビュー：作品制作の様子、作家インタビューの動画になります。



奈良県立美術館 YouTube

広報用作品画像※掲載をご希望の方は番号でお知らせください。掲載の際には作品情報(太字)を掲載下さい。

1		<p>三輪途道 《光の存在—光明観音》 2026年 151×72×58 cm 石膏心乾漆 作家蔵 ※本作品は出品作品です</p>
2		<p>三輪途道 《ちょっとだけでいいからすきになって》 2025年 85×30×3cm 石膏粘土、アクリル絵具、クレヨン、パステル 作家蔵 ※本作品は出品作品です</p>
3		<p>三輪途道 触察板「ちょっとだけでいいからすきになって」 2025年 85×30×3cm 檜、漆 作家蔵 ※本作品は出品作品です</p>
4		<p>三輪途道 《おそとねこのひなた》 2025年 34×21×27cm 石膏心乾漆 作家蔵 ※本作品は出品作品です</p>
5		<p>(参考資料) 触察板の体験ワークショップ</p>